

学校教育自己診断 児童アンケートについて

- 教育目標 「豊かな個性と創造力の伸長」
- めざす子ども像 ● 自ら考え、行動する子ども
● 「力を合わせて、ともにのびる子ども」
● 「最後までやりとげる子ども」
- 努力目標 「互いを認め合い、自信をもって表現できる子どもの育成」

上記の目標・子ども像を達成するため、家庭・地域のご支援ご協力のもと、教育活動を進めてまいりました。

2学期末に実施した児童アンケートの結果につきましては、学校全体で分析し、3学期以降、この結果からの児童実態を踏まえ、教育活動を展開しております。また、以下のとおり「茨木っ子グローイングアップ計画（2017年度～2019年度）」の5つの力を児童アンケートの各項目にも照らし合わせ、次年度計画の資料として活用いたします。

茨木市グローイングアッププラン 5つの力		低学年アンケート項目	高学年アンケート項目
ゆめ力	将来展望を持ち努力できる力	⑪	⑬⑭
自分力	規範意識を持ち、自分をコントロールできる力	⑥⑨⑭	⑦⑪⑰
つながり力	他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力	⑦⑧⑨⑮	⑧⑨⑩⑫⑱⑲
学び力	意欲的に学ぶ力	①②③④⑤	①②③④⑤⑥
元気力	健康・体力を保持増進できる力	⑫⑬⑯	⑮⑯⑳

8割以上の肯定的回答を得た項目は成果が表れていると捉えております。

児童アンケート結果は低学年16項目全項目、高学年20項目中②⑮を除く18項目が8割以上の肯定的回答です。全体的に教育の取組み成果が表れていると捉えます。

また、「学校へ行くのが楽しい」は低学年①90%に対し、高学年①は95%であり、低学年⑩「学校で友達と会うのが楽しい」が94%に対し、高学年⑫「友達と協力して活動することは楽しい」は96%が肯定的にとらえています。「チャイムが鳴ったら席について授業準備をしている」低学年⑨92%、高学年⑪93%です。このように、低学年より高学年の方が、より肯定的にとらえていることから、高学年になるにしたがい、規範意識も高くなり、人間関係もひろがり、深まり、学校生活がより楽しいものとなっているととらえることができると考えます。また、高学年の「みんなの意見が大切にされ、安心して授業に参加できる」⑧が95%となっています。この意識の高さは人権教育の成果と考えます。これからも人権教育に力を入れ、仲間づくりを大切にしたいと思えます。

一方、各項目に少数でも否定的な回答をしている児童がいるということでは、認識を深くし、否定的に回答した児童への対応や個別の支援などを丁寧に行う必要があると考えます。特に、「いじめ」の項目については、低学年「クラスでいじわるをする人がいたらちゅういする」⑥が87%、高学年「いじめを許さない雰囲気だ」⑦は88%が肯定的で、否定的なとらえ方をする児童が少数ですがいます。いじめはどのような学校でも起こりうるもの、ととらえ、本校の全ての児童が人の心の痛みを感じ、いじめをしないおこさない、いじめを止める行動力を持てるよう、道徳教育、人権教育により一層力を入れたいと考えます。

「算数の勉強は好き」、「英語の勉強は楽しい」は良好です。しかし、高学年「国語の勉強が好き」73%は課題ととらえています。国語は全ての教科学習の基盤となる教科です。学校では読書活動推進、授業改善を進めてまいりますので、ご家庭でも絵本の読み聞かせや、読書時間の確保など、子どもたちに活字に親しませるようご協力をよろしくお願いいたします。

高学年「体を動かすのが好きだ」⑳86%です。9割程度が全国平均であり、保護者アンケート「学校や家庭が運動習慣をつけることは大切だ」が98%ですので、引き続き運動好きな児童を育てる体育の授業改善、取組を推進していきます。

本校が実施して7年目になります縦割り活動につきましても、低学年⑮は92%、高学年⑱は90%が楽しいととらえています。この縦割り活動も本校の重点的な活動として継続させていきたいと考えます。

本年度学校教育にご理解ご協力いただきましたことに教職員一同深く感謝しております。